

4日開幕した「難加工技術展」「表面改質展」(日刊工業新聞社主催)

は、新技術やビジネスチャンスをめぐる来場者、出展者の熱気が会場のポートメッセなごや(名古屋市港区)にあふれた。各社が難削材の加工技術を訴求したほか、複数企業による共同出展も目を引いた。91社・団体が出展し、会期は6日まで。入場無料。

(2面参照)

スギノマシン(富山県魚津市)は運転コストを従来比4割減らせるウォータージェット加工機を展示した。水と混ぜて噴射する研磨材を微量かつ

安定的に供給する技術を中心としており、最小切断幅は0.3ミリ。チタンや炭素繊維強化プラスチック(CFRP)など難削材の加工に向く。「航空機部品や医療部品

など向けに提案したい」(松原均WJ事業部営業部長)と意気込む。新製品の複合加工機も実演展示している。

アルミやチタンなどの金属射出成形技術をアピールするのは、キャステム(広島県福山市)。微細部品への対応が強みで「顧客の求める形状まで最大限、近づけられる」(福田豊営業部名古屋支店係長)と自負する。精密機器や半導体業界などに売り込みをかける。

オリイメック(神奈川県伊勢原市)は超音波スピンドルによる穴あけ加工を実演。毎分1500回転のビルトインモーターを搭載しており、「硬くてもちい素材の加工に最適」(中村弘満技術本

部超音波機器課長)と強調する。特に炭化ケイ素3メーカーで作り上げた

「機械、工具、CAMのLFC研究会は、サーボ制御による低周波振動

技術で特許も取得した。同技術は来年度までに実用化したい」とする。出展各社からは、日本で勝ち残るモノづくりを示す意欲が伝わる。

難加工技術展

Difficult Manufacturing Technology Show 2012

表面改質展2012

加工技術の頂点へ

上



新製品や新技術が披露された展示会場

製材料の穴あけ用途を見込む。

独自の加工技術をPRしていく」と強調するの

切削(LFC)による難削材の加工デモを行う。同研究会はアドバンテック(兵庫県尼崎市)の今

東朋テクノロジ(名古屋市中区)は、米社から輸入販売する3Dプリンター2種類を出展。石こうや樹脂材料の3次元成形が可能だ。吉田英二産業システム部産業システム課統括課長は「当社の商社機能をフル活用しており、故障対応などのサポート体制も万全」とアピールする。

複数が技術融合を図った共同出展も目立つ。粗加工から仕上げまで行え、大幅なコストダウンにもつながるといふ。マシニングセンター(MC)で今回初めて実演を行い、注目を集める。

「機軸、工具、CAMの3メーカーで作り上げた複数が技術融合を図った共同出展も目立つ。粗加工から仕上げまで行え、大幅なコストダウンにもつながるといふ。マシニングセンター(MC)で今回初めて実演を行い、注目を集める。今崎社長は「LFC

複数社が 共同出展目立つ 技術融合